

結 果

名蔵湾全体の海草の分布を図1に示した。図1でわかる様に湾に沿って馬蹄形に海草が分布し、湾口では消失し、湾口近くで海草藻場の幅はせまく、湾奥で海草藻場の幅が広い事がわかる。これは湾奥は名蔵川の土砂の堆積で浅い部分の巾が広いと思われる。

被度は誌面の都合で表は省略するが、保護水面の測線口・ハの一部と湾奥部のリ・ル、南岸のヲで被度の高いところがみられた。特に測線ルは被度の高いところが広大で、名蔵湾ではもっとも良い海草藻場といえよう。

また名蔵川の測点Eはコアマモの群落で、ここだけ独立して分布していたが、これは塩分と関係があるのではないと思われる。

次に採集した海草の現存量を示したのが表2である。採集地点は図1に示してある。現存量は乾重量(g)/ m^2 で表わした。

表2を見ると1番広く分布しているのがリュウキュウスガモで現存量も多いが、これはリュウキュウスガモ自体が大型であるためであろう。次いでリュウキュウアマモとベニアマモが続くが、種類分けの段階で一部混同したので優劣はつけられない。以上3種が分布も現存量も優占的である。

ウミジグサの分布も以上3種に匹敵するが、小型種なので現存量はやや少ない。マツバウミジグザとウミヒルモの分布が似ており岸寄りに多く、特に遠浅の測線、リ・ヌ・ルでははっきりと上記4種と分布を異にしている。両種ともウミジグサ以上に小型種なので現存量も非常に少ない。

ポウバアマモが採集できたのは地点ロー1だけであるが、潜水観察では他でも時々みられた。

コアマモは名蔵川の地点Eに分布するのみであった。

次に採集地点別にみると種類が1番多いのはロー1で、現存量が1番高いのはハー1と保護水面内の藻場が種類も多く、現存量も多いことがわかった。

2-2. ベントスの分布

方 法

ベントスの採集は九州大学理学部付属天草臨海実験所菊地泰二教授の指導で行った。また種類の同定も依頼中である。

採集には1mm目の直径20cmの標準ふるいを用い逆さにして地面に伏せ、網目のところまで(4.5cm)地面にたたき込み、横からスコップですくい取って定量的に採集した。サン

プルは布袋に入れて持ち帰り、2 mm目と1 mm目の標準ふるいでふるい分け、残ったものについて、2 mmのものは全部、1 mm目のものは $\frac{1}{2}$ をソーティングしてベントスを種類別に取
り出した。

各地点3回ずつ採集し、それらを合せて1 m²当りの個体数を出した。

結 果

結果を表3にまとめた。当地域では未研究の種が多く、同定には時間を要するので大まかな分類別に記載した。

表3. 地点別のベントス密度 (個体/m²)

採集地点	種類	星虫類	多毛類	ゆむし類	巻貝類	二枚貝類	ひざら貝類	軟甲類	等脚類	端脚類	エビ類	ヤドカリ類	カニ類	蛇足類	シラヒゲ類	海綿類	不明種
ハ-1			106.20	10.62	53.10	63.72			10.62		10.62	31.86	10.62				10.62
ニ-1			191.16	31.86	31.86	63.72						95.58	84.96				
ニ-2			31.86		53.10	42.48		10.62	10.62			10.62	21.24				138.06
ト-1					21.24	84.96						10.62					42.48
ト-2			106.20		42.48	10.62			10.62			74.34	21.24		10.62		
ト-4			53.10	10.62	53.10				21.24			95.58	95.58	10.62	10.62		21.24
ワ-1			31.86		53.10	42.48		10.62				42.48	53.10		21.24		31.86
チ-1			63.72	10.62	159.30	21.24			21.24		10.62	276.12	10.62			21.24	
リ-1			10.62		84.96	10.62											
リ-2			84.96		116.82	95.58					21.24	21.24	31.86		21.24	10.62	
リ-3	10.62		95.58		74.34	53.10			10.62			106.20					10.62
ヌ-4			148.68	10.62	42.48	127.44						10.62	21.24			21.24	
ヌ-3			21.24		10.62	276.12			10.62	10.62	10.62	10.62	53.10				
ヌ-2			169.92		10.62	42.48		10.62	10.62	10.62	10.62	10.62	42.48				
ヌ-1						31.86						21.24	10.62	10.62			10.62
ヌ-0			21.24		10.62	31.86						31.86					
ル-2			21.24		10.62	446.04					21.24	21.24	10.62				31.86
ル-3			116.82		31.86	148.68						95.58					
ル-4			297.36	10.62	201.78	127.44	21.24	21.24	21.24		10.62	382.32	84.96				74.34
ル-5			74.34	10.62	10.16	138.06	10.62					21.24	63.72	10.62			53.10
ヲ-1			10.62	10.62	63.72	148.68		10.62	10.62			74.34	106.20		10.62		
ヲ-2	10.62		21.24		106.20	148.68		10.62				10.62	10.62	63.72	10.62		
ヲ-3			84.96		31.86	84.96		10.62				31.86	21.24	21.24			

広く分布するのは多毛類・巻貝類・二枚貝類・ヤドカリ類・カニ類の5種類であった。
量的には多毛類・巻貝類・二枚貝類が多かった。

地点別にみると、測線ルの各地点ともベントスが多いことがわかるが、表2の海草の種類や現存量とあまり関係がない様である。

保護水面内の地点ハ-1、ニ-1.2ともに現存量は平均以上である。

測線トと測線ワは隣り合った場所にある(図1参照)が、ここにシラヒゲウニの分布が集